

大山の森だより

2022年夏号

○大山で精霊(ショウリョウ)に会う

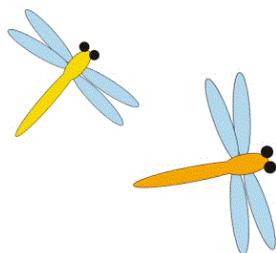
大山も盆を過ぎると秋の気配がしてきます。盆とは仏教の行事のように感じますが、もともとは先祖の霊を迎える古神道につながる行事です。大山は死者の魂(霊)が集まる山とされ、特に山陽側では親族の死者を弔うために大山へ参拝したそうです。高い山の頂や井戸の底は死者の国につながっていると考えられました。

日本の古い観念では、死者の霊は時間と共に若返っていき、ついには赤子となって消え、祖霊として神の国に行くのだとか。死者の国は現世と全てが逆なので、死者に着せる帷子かたびらを左前にするのだそうです。

祖霊は正月に年神となって子孫のところへやってきます。近い先祖・親族の霊は、盆にきゅうりの馬に乗って帰ってくるといわれていますが、

トンボに乗って帰ってくると言われている地域もあります。夏に群れで渡ってくる黄色いトンボ=ウスバキトンボは精霊(ショウリョウ)トンボとも言います。精霊とは死者の国へ旅立った霊のことで、大きなオニヤンマをショウリョウトンボと呼ぶ地域もあるそうです。チョウやホタルを死者の霊とする地方もあります。

ウスバキトンボは大山では8月ごろに現れます。小さな生き物に懐かしい親族や先祖を偲んでみませんか。



※盆頃に現れるショウリョウバッタは、精霊を送り返す精霊船に形が似ていることから名前が付いたとか。

春期 自然ふれあい事業 活動報告

○大山寺 寂静山周辺の知られざる遺跡を巡る

開催日: 4月16日(土)



大山寺唯一の観音菩薩石像を探して、寂静山周辺を散策しました。森の中で春の花々を観察し、中世の遺跡を探索しました。

○西明院谷 花言葉から探す 春の花観察会

開催日: 5月15日(日)



花言葉の一覧から、見つけた花を探すというゲームをしながら、大山の森に咲く花をじっくり観察しました。イワカガミの花言葉は「忠実」。

■自然公園財団では、季節ごとに観察会などを開催しています。

予約なしでも参加できるイベントもありますので、是非ご参加ください。

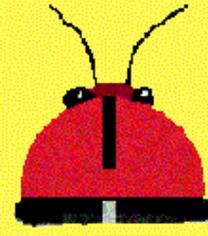
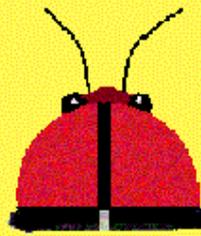
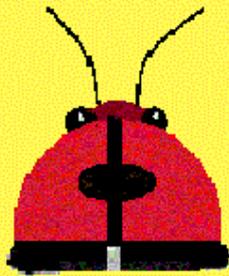
裏面にイベント情報を掲載しています。

特集：「大山のホタル」 ～ ● ～ ● ～ ●

ホタルは発光することで知られる甲虫の仲間です。熱帯から温帯の雨が多い地域に生息し、世界には2000種を超えるホタルが知られています。幼虫時代を陸で過ごす陸生ホタルと、水中ですごす水生ホタルがあり、日本で親しまれているゲンジボタルやヘイケボタルは水生ホタルで、森で見られるヒメボタルは陸生ホタルです。日本では40種が知られており、大山には夜行性のホタル3種、昼行性のホタル3種が生息しています。幼虫時代はほぼすべての種で発光しますが、成虫になると発光する種は少なくなります。成虫で発光する種はほぼ夜行性で、光を配偶行動に使用しています。昼行性のホタルはフェロモン感知のための触角が発達しており、性フェロモンを配偶行動に使用するので発光が弱くなったと考えられます。



【大山の夜行性ホタル(成虫)の見分け方】 ※発光する。体に厚みがある

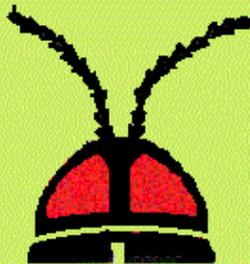


ゲンジボタル 6月上中旬
溪流 15～17ミリ 蛍光
西日本は2秒間隔で2秒発光
雌の方が一回り大きい。水生

ヘイケボタル 6月下旬～7月上旬
田んぼ・小川 10ミリ 蛍光
1秒間隔で1秒発光 雄雌ともほぼ
同じ大きさ。水生

ヒメボタル 7月上中旬
森林 6～9ミリ 金色光
点滅発光 雄の方が少し大
きい。メスは飛べない。陸生

【大山の昼行性ホタル(成虫)の見分け方】 ※発光しない。触角が太く、体が平たい



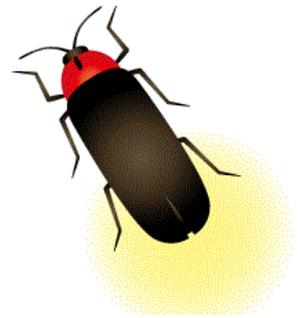
オバボタル 6～8月
林の縁 11ミリ 雌は
ほとんど飛ばない。陸生

オオオバボタル 6～8月
林の中 13～15ミリ 雌
はほとんど飛ばない。陸生

オオマドボタル 7月上旬
林 11ミリ 背中に目のよう
な透明な部分がある。メスは
翅が退化し飛べない。陸生

幼虫は貝類などを捕食する肉食で、頭の小さい芋虫に似ています。水生のゲンジボタルはカワニナ、ヘイケボタルは主にモノアラガイやサカマキガイ、陸生のホタルは小さいカタツムリの仲間かミズなどを食べています。成虫は水を飲むくらいでエサを食べません。ホタルの仲間はほぼすべての種類で体内に毒を持っているため、まず捕食されません。

○大山山頂のヒメボタル



ヒメボタルは森に住む日本固有のホタルで、ヘイケボタルより一回り小さく、オスは飛びながら黄色い光をパッパッと点滅させます。中腹の大山寺周辺でヒメボタル観賞会が催されているのでそれなりに知名度はあるのですが、山頂のヒメボタルは知る人ぞ知るところかもしれません。山頂にいるヒメボタルは、DNA 鑑定で固有種であることが確認されたそうです。ヒメボタルのメスは飛べないので、山頂台地へ簡単に移動することはできません。しかし、そうなるといったいつから生息しているのか、どこからどうやって頂上台地にやってきたのか、考えれば考えるほど謎が多いです。



大山頂上のキャラボクの林と石室

大山寺周辺のヒメボタルは例年7月20日前後が見ごろですが、気温の低い山頂は1週間くらい遅れた7月下旬か8月上旬あたりが見ごろと思われます。普通のヒメボタルはオスが飛びながら光りますが、頂上のヒメボタルはオスメスとも草やキャラボクの枝に止まった状態で光っており、飛んでいる個体はほぼ見られません。飛ばないのは風の強い山頂に適応したからかもしれません。

頂上のホタルが見られる時期に頂上小屋に宿泊すると、頭上には満天の星、眼下には米子の町の灯と漁火、そして足元には豊かなホタルの光という豪華な光の共演が楽しめるかもしれませんね。

コラム①: ツキヨタケは怪しく光る^{あや}

ツキヨタケは夏の終わりから秋にかけて主にブナの枯れ木に生えるキノコで、夜になるとぼんやりと光るのが名前の由来。大山周辺ではクマヒラと呼ばれています。

秋のキノコ狩りの獲物であるムキタケ(地元名ボタヒラ)に似ており、誤食して中毒する例が多い毒キノコです。

ツキヨタケの方が色が濃く、傘を裂くと軸の付け根付近に黒いしみがあります。

ツキヨタケが光るのは、ランプテロフラビンという成分の生物発光。光る場所は胞子が出るキノコの傘の下の部分で、上の部分や軸の部分は光りません。

虫がつきやすいキノコで成熟したツキヨタケには虫がたかっていることが多いです。虫と発光との関係はよくわかっていませんが、虫を使って胞子をばらまいているものと推測されます。



コラム②: 「灯(燈)明杉」 大山の光る木の伝説

昔、大日堂(現・大山寺本堂)へ上る階段の中段に、幹回り10メートルはある大きな杉の木がありました。

嵐の夜に日本海を航行する船が、大山を照らす光によって方向がわかり助かるということが何度もあり、その光がこの大杉の先端から出ていたことから「灯(燈)明杉」、または「光明杉」と呼ばれていたそうです。

「灯(燈)明杉」は、大山の大智明権現のご加護の証として大切に祀られていました。14世紀中ごろに書かれた大山寺縁起には、嵐で遭難した米子の漁師が、ほのかに見える大山と流星のような閃光によって方角が分かり助かるという話が記載されています。杉のことは書かれていませんが、これが後に「灯(燈)明杉」に繋がったのでしょうか。



ーイベント情報（9月～11月）ー



■自然公園財団のイベント

<p>○西明院谷 自然観察とオルガニート演奏会 開催日：9月18日(日) 9:00～12:00頃 会場：豪円山周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円</p>	<p>秋の気配を感じながら、大山の森を歩きます。古い寺院跡では手回しオルゴール「オルガニート」を演奏。自然の中で優しい音楽に癒され、悠久の時と諸行無常を感じてください。 定員：15名 自然観察 癒しの体験</p>
<p>○横手道 秋の木の実草の実観察会 開催日：10月8日(土) 9:00～12:00頃 会場：横手道 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円</p>	<p>秋は実りの季節。様々な植物が実(種)を結びます。実(種)は植物が命をつなぐ手段。植物ごとにいろいろな工夫が見られます。大山の森や草原でいろいろな実を見つけて観察してみましょう。 定員：15名 自然観察</p>
<p>○大山寺 阿弥陀堂周辺の知られざる遺跡を探る 開催日：10月22日(土) 9:00～12:00頃 会場：阿弥陀堂と常行谷周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円 ※健脚向き</p>	<p>木々が色づき始める大山のブナの森。阿弥陀堂の背後の森には夏山登山道につながる道の跡があります。その合流点から望むのは常行谷奥にある謎の平坦地。そこに何があったのか。初秋の大山で謎の遺跡を探索します。 定員：10名 歴史探訪</p>
<p>○大山寺 利生水周辺の謎の遺跡を探る 開催日：11月19日(土) 9:00～12:00頃 会場：利生水と大山寺金門周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円 ※健脚向き</p>	<p>行基菩薩の伝説が残る利生水の上には寺院跡があることは知られていましたが、最近、複数の寺院跡が発見されました。それは御旅所跡と伝わる高台の平坦地へとつながっています。知られざる寺院跡を巡るツアーです。 定員：10名 歴史探訪</p>

★星取県「鳥取」大山のイベント★

鳥取県は、環境省が実施した全国星空継続観察において、いわゆる“星の見えやすさ”で全国1位に輝くなど、美しい星空が自慢です。2017年からは星取県と名乗って鳥取県の夜の魅力を発信しています。

国立公園大山でも星空を楽しむイベントがいろいろと企画されています。今年の夏は夜の大山を楽しもう！

○「大山 星空で遊ぶツアー」 ※毎月2～3回開催。

大山観光局・大山ツアーデスク(大山町大山 45-5 Tel: 0859-48-6123)

○「星空観察会」 ※宿泊者限定

ホテル大山しろがね(大山町大山 136-2 Tel: 0859- 52-2211)

○「星取県の星空見ナイト」 ※週末限定星座観察会

休暇村奥大山(江府町御机字鏡ヶ成 709-1 Tel: 0859-75-2300)



一般財団法人 自然公園財団 鳥取支部 大山事業地



〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山40-33

大山ナショナルパークセンター(大山 NPC) 1階

TEL:0859-52-2165 FAX:0859-52-2370

URL <http://www.bes.or.jp/daisen/>

